

陣ノ内城跡でのこれからの取り組み

陣ノ内城跡でこれから具体的にに取り組んでいくことの例を示します。速やかに対策すべきことや可能なことから段階的に進め、計画期間10年とその後の期間も含め長期的に、保存と活用を進めていきます。

保存管理



堀・土塁の保存



調査研究

史跡指定地内においては、文化財保護法に基づいて、物理的な変更を伴う行為(現状変更)等について、文化庁長官または県・町の許可を受ける必要があります。

この他、史跡指定地の公有化、樹木・草本の管理、鳥獣被害への対策などに取り組みます。

活用



教育現場での活用



イベント企画



日常利用の促進

(他地域の例)

この他、史跡についての情報発信、見学のためのガイダンス機能の整備、避難場所としての利用検討、周遊ルートの設定などに取り組みます。

整備



鳥獣被害の対策



サインなどの整備



芝生広場化の検討

(他地域の例)

この他、遺構展示の整備、駐車場の整備、手すり・柵の整備などに取り組みます。

運営体制

現在、下豊内区の方々の協力を得て、陣ノ内城跡の保存をしています。甲佐町教育委員会が管理を担いながら、今後はさらに町民の皆さんなど多くの方も関われる取り組みを促進していきます。



甲佐町教育委員会
TEL 096-234-2447
Email shakai01@kosa.kumamoto.jp
令和6年3月

史跡陣ノ内城跡保存活用計画 概要版

陣ノ内城跡とは？

令和3年10月に国の史跡に指定されました。

陣ノ内城跡は、熊本県甲佐町の緑川と流域の平野を見下ろす平坦地上に立地しています。

肥後国における中世城館の中でも突出した規模を持つ保存状態が良好な城跡で、水陸交通の要衝に長期間にわたって継続的に維持されたと考えられ、阿蘇氏から豊臣系大名による肥後国支配へと転換する時期の政治的、社会的状況を考える上でも重要な城跡です。



東側から撮影した陣ノ内城跡



北側の土塁から見た堀



現時点の調査成果

陣ノ内城跡の詳細はこちら！



PR動画・アクセス

保存活用計画とは？

陣ノ内城跡の持つ価値を整理し、その適正な保存・管理や将来の活用・整備、これからの取り組みを進めていくための管理運営体制などについての方針を示すものです。

本計画は令和6年4月から施行し、計画期間は10年間です。その後も必要に応じて本計画を見直ししながら、引き続き検討を進めていきます。

- 第1章 計画策定の経緯・目的
- 第2章 史跡の概要
- 第3章 史跡の価値
- 第4章 現状と課題
- 第5章 大綱・基本方針
- 第6章 保存管理
- 第7章 活用
- 第8章 整備
- 第9章 運営・体制
- 第10章 施策の実施計画の策定・実施
- 第11章 経過観察

計画の策定では、令和4・5年度の2年間に甲佐町民の代表を含む有識者・専門家等からなる「史跡陣ノ内城跡保存活用計画策定委員会」を開催して検討を重ねました。また、オブザーバーとして地元代表、文化庁、熊本県の方々が出席しました。



計画書の本編は甲佐町公式ウェブサイトに公開

これまでの陣ノ内城跡

陣ノ内城跡からは、縄文時代から江戸時代までの歴史を示す遺構や遺物が検出されています。また、陣ノ内城の立地が江戸時代以降の甲佐の町の形成に大きな影響を与えたことが分かっています。そこで陣ノ内城跡と甲佐町の出来事について、下表のとおり整理しました。

時代	陣ノ内城跡と甲佐町の出来事	
	5	
縄文	10,000年～4,000年前	生活の痕跡が残る
弥生	2,000年前	生活の痕跡が残る
古墳	1,400～1,500年前	西側斜面に横穴墓が造営される
平安	保延3年(1137) 甲佐社の名前が古文書で確認される	
鎌倉	永仁元年(1293)頃 竹崎季長が蒙古襲来絵詞を甲佐社に奉納	
室町	12世紀～	阿蘇氏時代の様相を窺える遺構・遺物が残る
戦国	延元3年(1338)	患良惟澄の本拠「甲佐城」を攻められる
安土桃山	天文16年(1547)と同22年(1553)	下豊内の逆修碑建立
	天正13年(1585)	「甲佐の囲」落城
	天正16年(1588)	小西行長、甲佐を領有
	慶長5年(1600)	関ヶ原合戦で小西氏滅亡
江戸	慶長13年(1608)	鵜ノ瀬堰、甲佐井手（大井手）完成
	寛文9年(1669)	在町岩下町成立
	文政7年(1824)	上井手(下豊新井手)完成
明治	明治8年(1875)	緑川製糸場 設立
昭和	古墳時代の横穴墓を改変した防空壕が造営	
	昭和19年(1944)	軍需工場工事開始
	昭和25年(1950)	筏流しが九州電力塚瀬ダム（美里町）の建設によって終止符
	昭和55年(1980)	町指定文化財に指定
平成	平成14年(2002)	地形測量調査、試掘の調査を3ヶ年実施
	平成20年(2008)	調査を5ヶ年にわたり実施（発掘調査、石造物調査、登城道調査、聞き取り調査、文献調査）
	平成26年(2014)	「陣ノ内館跡」報告書を発行
令和	令和2年(2020)	遺跡の名称を「陣ノ内館跡」から「陣ノ内城跡」にあらため「陣ノ内城跡」総括報告書を発行
	令和3年(2021)	陣ノ内城跡史跡指定・シンポジウム開催
	令和6年(2024)	史跡陣ノ内城跡保存活用計画策定

史跡の活用に資する要素

史跡の価値

陣ノ内城跡の本質的価値を、年表とあわせて整理しました。

① 小西氏時代の城郭の様相を 顕著に示す遺構・遺物

陣ノ内城跡は堀と土塁が明瞭に残り、その規模は東西210m以上、南北190m以上の北西と南東に虎口をもつ方形の城跡です。その規模は中世の阿蘇氏の城館をはるかに凌ぎ、主郭を直線的で屈曲した堀を用いて明確に区分する構造は、他の城郭との比較から、小西行長による築城と考えられます。陣ノ内城跡は小西行長の城郭を現在まで良好に残す貴重な城郭といえます。

2 豊臣系大名による肥後国支配へと転換する時期の政治的、社会的状況を知るための価値

小西氏の城郭はいずれも戦国時代の領主やその有力家臣の城の近くに築城しています。陣ノ内城も200m南方の松尾城の近くに築城されており、豊臣系大名が新たな領国に入る際の統治の在り方の一つを知ることができます。

3 阿蘇氏時代の様相を窺える 遺構・遺物

陣ノ内城跡では12世紀以降の貴重な貿易陶磁器が出土しています。この時期は阿蘇氏が甲佐を統治した時期であり、陣ノ内城跡の場所は阿蘇氏統治の頃から権力者によって利用されていたと考えられています。

4 継続的に利用された緑川筋の水陸交通の要衝としての価値

陣ノ内城は、河川交通の出発点に位置し、小西氏の本城の宇土城（宇土市）と支城の矢部城（愛藤寺城 山都町）を結ぶ領国内の中継地に築城されました。また、益城郡を治めた阿蘇氏にとっても熊本平野に進出する重要な場所でした。これらのことから、城跡のある場所は水陸交通の要衝に所在し、有力者によって継続的に利用されたことが明らかになりました。

5 緑川の流れと緑川により形成された地形

約9万年前、阿蘇からの火砕流でできた地形が浸食され、陣ノ内城跡が立地する「免の山」が形成されました。この平坦な地形と川を眺める場所があったことで、陣ノ内城が立地しました。

これからめざす陣ノ内城跡

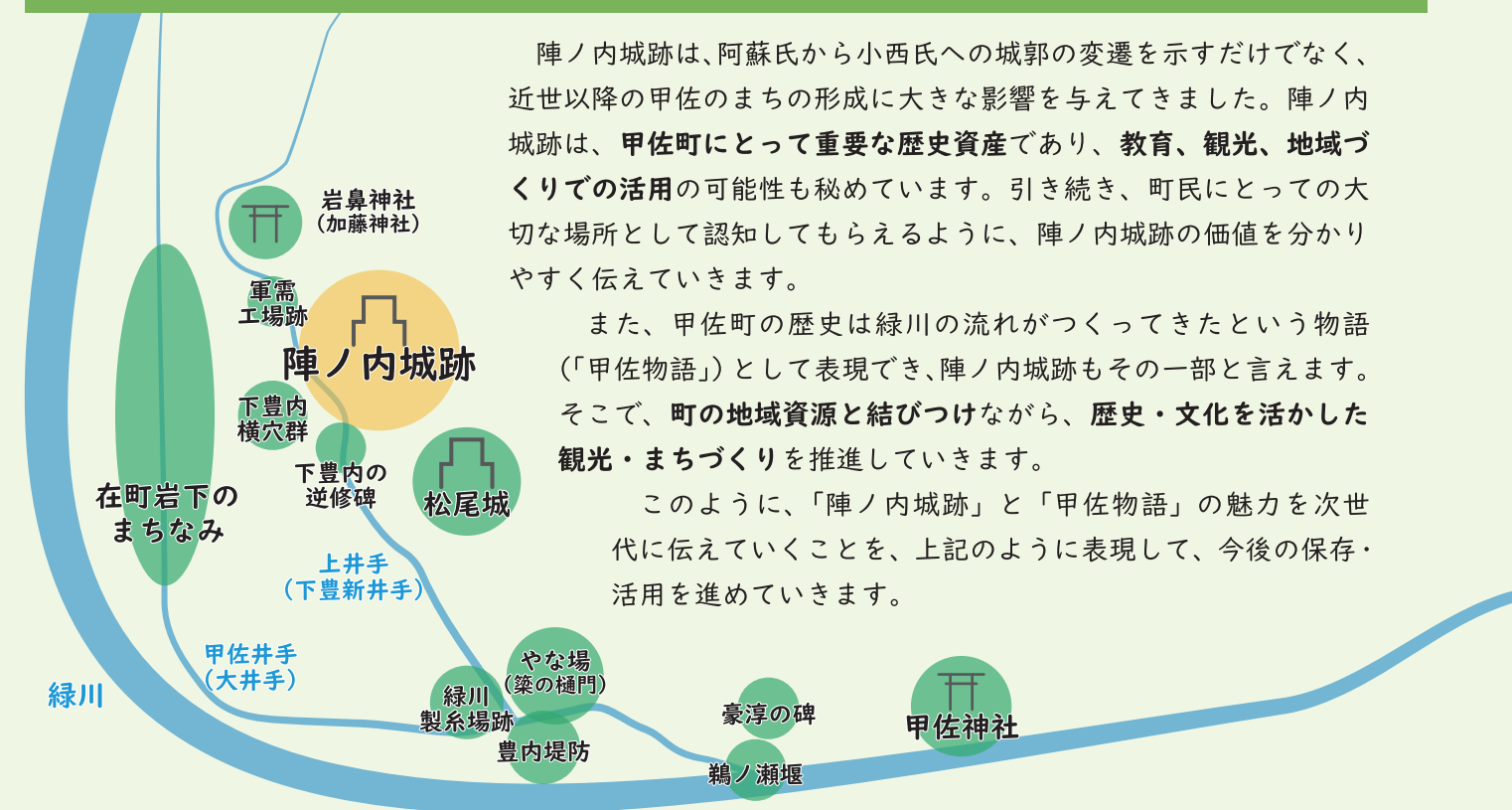
私たちの城「陣ノ内城跡」
緑川が語る「甲佐物語」

登って守り伝えよう 巡ればもっと好きになる

陣ノ内城跡は、阿蘇氏から小西氏への城郭の変遷を示すだけでなく、近世以降の甲佐のまちの形成に大きな影響を与えてきました。陣ノ内城跡は、**甲佐町にとって重要な歴史資産であり、教育、観光、地域づくりでの活用**の可能性も秘めています。引き続き、町民にとっての大切な場所として認知してもらえるように、陣ノ内城跡の価値を分かりやすく伝えていきます。

また、甲佐町の歴史は緑川の流れがつくってきたという物語（「甲佐物語」）として表現でき、陣ノ内城跡もその一部と言えます。そこで、町の地域資源と結びつけながら、歴史・文化を活かした観光・まちづくりを推進していきます。

このように、「陣ノ内城跡」と「甲佐物語」の魅力を次世代に伝えていくことを、上記のように表現して、今後の保存・活用を進めていきます。



陣ノ内城跡の保存活用事業の4つの基本方針

保存管理

史跡指定範囲の89%が民有地であるため、史跡指定地の公有化を進めます。また、史跡の価値を構成する堀と土塁の保存を最優先に、日常的な維持管理を続けながら、史跡指定地の現状を変更する際のルールを周知していきます。さらに、城郭の全容解明に向けて調査を継続し、その成果は広く周知していきます。

活用

陣ノ内城跡を「知る」「まもる・活かす」「誇りにおもう」、甲佐を「^{めぐ}経巡る」を活用戦略として掲げ、史跡の価値や「甲佐物語」を分かりやすく伝えていく拠点として位置づけ、町民をはじめ多くの人々が来訪して親しめる場所にするため、教育、健康増進、観光、まちづくりと関連付けて活用していきます。

整備

史跡の価値を保存するため、現在き損が見られる堀や土塁などの措置を行います。また、見学時の安全・利便性を確保しながら、現地ならではの展示を段階的に整備します。さらに、周遊ルートを中心に、眺望地点、災害発生時の避難場所としての整備も検討します。

運営体制

管理する甲佐町が中心となり、地域の方々、民間企業、国・県など、様々な関係者と連携して保存・活用に取り組むための、持続可能な協働体制を構築します。さらなる調査研究のために、近隣の市町村や大学等の研究機関など、陣ノ内城跡に関心のある団体・人々のネットワークを広げて体制を強化します。